

委員会視察報告書

委員会名	予算決算常任委員会運営会議
視察地	東京都国分寺市
調査項目	事務事業評価について
調査目的	国分寺市の事務事業評価に議会がどれだけ関わっていて、次年度の市政にどのように反映されているかを学ぶことで、本委員会での事務事業評価の参考にするため
日時	令和5(2023)年8月22日 午後2時～3時30分
場所	国分寺市市役所(東京都国分寺市戸倉一丁目6番地1)
調査概要	<p>東京都国分寺市 人口128,401人 面積11.46km² 現在建て替えを行っている為今回視察をさせて頂いた委員会室は本会議場にもなるそうで議長席等常設ではないものの用意されてあった。</p> <p>○平成13年度より事務事業評価を行っており、国分寺市総合ビジョンという計画のもと655の事務事業とその上の段階の全36施策の2本立てで評価を行っている。</p> <p>○国分寺市ビジョンとはまちづくりの最上位計画に位置付けられており、総合ビジョンでは『魅力あふれ人と繋がる文化都市国分寺』として定めている。市民と事業者等々街の将来像を共有しオール国分寺として進めている。</p> <p>○現在は国分寺市総合ビジョンの中で平成29年度から令和6年の約8年間(前期4年、後期4年)の市長の任期に合わせて4年で『PDCAサイクル』を回すように出来ている。</p> <p>○まちづくりの基本理念は未来の街姿及び分野別の都市像の実現に向けて3つの理念を掲げている。</p> <p>1 ともに進める『オール国分寺』で地域の課題に取り組みます。 2 ともに高める国分寺のあふれる魅力を市民・事業者等と主に高めていきます。 3 ともにつなげる国分寺の豊かさを市民・事業者等とともに未来へつなげていきます。</p>

を掲げている。

●施策評価の内容

・平成24年度から、全36施策の評価を施策シートに評価項目を設けて記載。事務事業評価も事務事業評価シートに記載。

・評価の流れは、『PDCA サイクル』になっており、施策の実施、市民アンケートの実施、施策の担当課による施策評価、外部・内部評価、次年度施策方針の決定次年度予算反映、施策の実施というサイクルで回している。

・各担当課が市民アンケートの結果を踏まえて、施策の取り組み状況評価をしている。

・行政改革推進委員会という市民と有識者で成り立っている委員会と総合ビジョン推進本部の2機関で評価をしている。担当課はその評価を踏まえて次年度の予算を決めるという流れになっている。

●市民アンケート

・毎年実施されている。

・その目的は、

- 1 幅広い世代の意見に基づいた市政運営の実現。
- 2 国分寺市総合ビジョンに掲げる施策の進捗状況の把握。
- 3 市の取り組みに対する市民の満足度の把握。

である。

・国分寺市の事務事業評価をするにあたり、議会が関わるという事ではなく、無作為に選ばれた18歳以上3000人の市民の方々から、多くのご意見を頂いているとの事である。

●事務事業評価

・事業評価は平成17年度から実施し、ねらいは

- 1 効率的・効果的な行政運営の確立。
- 2 市民へのアカウンタビリティの確保。
- 3 市民参加の促進。
- 4 市民ニーズに対応した行政運営。
- 5 職員の意識改革。

方法は『事務事業評価表』により各事業の担当課は前年度の実績を中心に複数年にわたり事業を俯瞰し、評価等を実施する。

・事務事業評価表に基づき決算時にアンケート事業者へ委託している。4月～5月にアンケートを実施、5月に集計、6月～8

	<p>月で報告書の作成、8月～9月報告書の確定、10月結果公表している。</p> <ul style="list-style-type: none">・施策マネジメントシートは6月～7月に施策要綱の実施、8月～9月に外部評価の実施、9月に国分寺市行政改革推進委員会の内部評価の実施、国分寺市のビジョン推進本部が次年度の実施方針作成し10月～12月次年度の方針を作成する。その内容を踏まえて実施方針の修正を1月～3月、公表が4月。・事務事業評価スケジュールは評価を5月～6月に行い、9月～10月予算編成を行い、12月～1月予算査定、公表4月となる。
視察の様子	<div data-bbox="459 707 1102 1104"></div> <div data-bbox="1142 786 1313 853"><p>全体写真</p></div> <div data-bbox="459 1140 1114 1541"></div> <div data-bbox="1150 1200 1350 1267"><p>説明の様子</p></div>
質疑応答	<p>質問1 決算審査における施策・事務事業評価の活用状況は</p> <p>回答1 各担当課は決算時に事務事業評価表の作成を行い各部署の今後の運営に活用している。</p> <p>質問2 施策・事務事業評価のPDCAサイクルについて</p> <p>回答2 事務事業評価表は決算時予算時に分けて作成特に予算編成時は事業の見直しと次年度予算計上の事務を合わせて実施しており決算時に前年度の実施評価をして予算編成時には次年度以降の予算展望も踏まえて評価している。</p>

質問3 施策・事務事業評価の議会として取り扱いについて

回答3 議会では事業の進捗状況を確認し、事務事業評価を活用している。4月に議会図書室に評価表を配荷、今後の取り組みとして進捗状況を確認するなどして活用している。

質問4 事務事業評価をする際、『次年度の実施方針と予算計上の考え方』が議会の意見と異なる場合、議会の意思はどの程度反映されるのか

回答4 直接的な反映はないが次年度の予算編成時に各課で最終確認があるので、それまでの間に各事業の内容について議論があった場合には修正が入ることはある。

質問5 「施策評価の流れ」に市民アンケートの実施が位置付けられているが、この市民アンケートの詳細について

回答5 幅広い意見に基づいた市政運営とする為に本市の最上位計画である総合ビジョンの各施策の進捗状況、市の取り組みに対する市民満足度の調査をしている。その調査を踏まえて各施策の取り組み状況の評価をしている。

質問6 市民アンケートの3000人の回収率、集約はどのようにしているのか

回答6 回収率は40%くらい 集約は委託で行っている。毎年4月に議会図書室に配荷している。

質問7 市民アンケートに全く興味のない人にも届くが数字的なものにバラつきが出ないのか、アンケートの状況に応じて調査をする、しないの判断はどのようにするのか

回答7 回答率によって数字のばらつきがあるがモニターなどで回収できればいい。それをもって事業に反映させるかという事で行っているわけではないので参考程度にしか見ておらず、あくまでもアンケートなので毎回改善するようにしている。

質問8 2つにわけて評価をしているという事で連動させていない目的は。事務事業評の内部評価を原課が評価するとスケジュール的にみてもタイトではないか、課題はないか。予算編成時にもう一回評価をするということだが決算時には原課の評価になり予算時には財政課が評価するのか

	<p>回答8 分けているのはそれぞれ別で動いているので今までやっていることをやめるという事がなかなか難しくできていない為、期間については担当課の負担はかなりあると思う。予算案に関しては担当課が改めて評価をし直すという、決算時に各課の考え方を記載してそのうえで予算査定が入る中で主管課と財政課含めやり取りをしてそれを踏まえて最終案が出た時点で再度各所管課に整理をしてもらう。予算計上時は各所管が挙げた段階で1回目最終の取りまとめで再度2回目の評価をしているという状況。かなり負担はあると感じている。</p>
<p>委員会所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(重野正毅委員長) 国分寺市総合ビジョンに記されている36施策の評価を平成24年度から行っており、それに先立ち、事務事業評価として現在は655事業の評価を平成17年度から本格実施しているとのことでした。それだけではなく、施策評価としての市民アンケートを平成30年度から毎年行っていることは、内部評価としてのアウトプット評価だけでなく、市民の満足度をはかるアウトカム評価に力を入れていることであり、柏崎市としても取り入れてほしいものです。また、視察の説明として各自にタブレットを配布し、その中のファイルを使っていたことに、ペーパーレスを進めることの徹底さを感じました。 ・(持田繁義副委員長) 早くから(平成17年度)事務事業評価を取り入れ、その目的を5つとしている。すなわち①効率的・効果的な行政運営の確立、②市民へのアカウンタビリティの確保、③市民参加の促進、④市民ニーズに対応した行政運営、⑤職員の意識改革である。市民への説明責任を果たすとともに、市民アンケートを実施するなかで市民参加を促進していることは先進的である。この反映・つながりが議員定数22名中、21名が一般質問にたつ当然の流れをつくっていると感じる。 ・(布施学) 施策評価・事務事業評価は決算時期に各担当課が作成。毎年行っている3000人の市民アンケートは回答率は約40%だが市民にアンケート行い税金の使途について市民にアンケートを行っているのは特筆すべきと感じた。また、単なる聞き取りではなく翌年度の予算編成にも反映される点も参考になった。

・(佐藤正典) 国分寺市総合ビジョンにより、5つの都市像を目標にして将来のまちづくりを進めている。そのための事務事業評価であり、36からなる施策評価のためのマネジメントシートと細かな事務事業評価票の二本立てになっているのが特徴的だと感じた。平成17年から本格実施し、長く取り組んできていることもあり、評価そのものの流れ、PDCAサイクルがしっかりと確立されていると感じた。また市民アンケートを積極的に取り入れて反映させていることも大きな特徴である。事務事業評価票が決算審査時と予算編成時に具体的に活かされているということも、実際に説明を聞き、評価票を拝見して理解できた。一方で、説明をされた当局が課題に挙げているように、この事務事業評価のための担当職員の業務負担をどれだけ軽減していけるか、そして、不要な事業をどれだけスクラップにつなげられるか、こうした点については、柏崎市も共通した課題だと思う。

・(近藤由香里) 国分寺市では、施策評価の一環として、市民アンケートを毎年実施していることが非常に印象に残る。施策のPDCAサイクルにおいて、アウトカム評価は重要であり、継続して実施することにより、市が掲げるビジョン・計画への理解促進にもつながっていると思う。また、施策評価・事務事業評価は、ともに市の公式サイトで公開され、誰もが閲覧できる。議会に対してあらためて報告・説明されてはいないとのことだが、評価内容を読み込むことで、予算・決算審査や一般質問等、議会活動において、深い議論ができていないのではないかと感じる。本市においては決算時に、主要施策等に関する報告書および事務報告書が議員に配布されるが、もう少し踏み込んだ行政評価資料(予算査定時の資料等)をいただければ、簡潔かつ深い質疑ができるのではないかと感じる。尚、視察時の説明はタブレットを用いて行われた。議会のデジタルツール活用の中でも参考にさせていただきたい。

・(田邊優香) 国分寺市の事務事業評価についてお聞きしました。本市議会では議会側も関り事務事業評価を行っていますが、国分寺市は市民の方々からアンケートさせて頂いた結果を参考に事務事業評価を行っているという事でした。その市民アンケートの結果をもとに次年度の予算反映の参考にしたり、しっかりと市民の声も取り入れているという事に本市でも事務事業評

価の取り組みの参考になるのではないかと感じました。今後しっかり研究していく必要があると感じました。

・(相澤宗一) まずは、毎年市民へアンケート調査を行っていることに目が行った。18歳以上の方を対象に毎年3,000名ずつを無作為抽出で行っているため、回答の属性が年度ごとにばらつきもあるとのこと。アンケートの設問のしかたでそれは大きく変わるため、国分寺市の総合ビジョン実行計画の4年間は聴き方を変えず経過を知る方法をとって、意見や要望の把握に努めているとあった。国分寺市の人口は128,363人(R4.8)であり、全対象市民に聴くとなると40年かかる計算であるが、行政評価が市民への説明責任の確保になるという信念に基づき行っていると理解した。毎年続けるという姿勢は信頼につながるが、柏崎市に当てはめる場合には、目的や費用対効果も充分検討する必要がある。

・(上森茜) 事務事業評価の取り組みについて国分寺市の取り組みを伺いました。評価するに当たって無作為に抽選で選んだ市民3,000人へ事業に対するアンケート調査を実施していた点には柏崎市との違いでした。アンケートの回答に郵送とネット回答を設けておりアンケートフォーム作成にお金がかかること、また集計にも時間がかかるとのことでしたが市民が各々の事業に対してどう感じているか率直に知る機会となり、またそれを予算に反映させている点はとても大切だと思いました。柏崎市でも評価に市民の声を取り入れることは出来ないか研究していきたい。

・(阿部基) 事務事業評価について、国分寺市の取組を伺いました。柏崎市との違いは、評価について、市民に対し、無作為に選出された3000人(回収率約40%)にアンケート調査を実施し、その結果を事務事業評価票に記載し、予算に反映させて点であります。集計に時間と経費がかかるものの、市民の声を大切にしていることは重要だと受け止めました。柏崎市に於いてもどのように多くの市民の声を聞き、次年度予算に反映させられるか、今後、研究して参ります。

・(春川敏浩) 人口128,691人(R5年4月1日現在)昭和39年11月3日に市制施行し国分寺市となる。面積は11.46km²と

都心から 27K と重心に位置した市である。説明資材は、タブレットを使つての説明で極めて先進的な取り計らいであった。総合ビジョン計画は期間を 8 年間とし、前期、後期それぞれ 4 年間に分け実行計画を定めている。施策評価は、全 36 事業 665 の事業評価を実施している。極めて、感心したのは市民アンケート調査 3,000 人から、18 歳以上の人を対象に回収率は約 40% である。若い人からの回答は少なく、集計は外部委託により実施している。経費は 130 万/回、郵送代含む。但し、ウェブでの回収は職員が行う。事業評価の中で市民評価欄があり、事業内容について市民の意見を大切にしている。まとめ、評価は一冊の本になっており議会側は、とても評価がし易いとの結論である。本市の評価についても、当局で事業全体を一つ一つ評価していくことにより市民満足度が現れ、施策事業への点検にもつながり効果的である。

・(真貝維義) 国分寺市は平成 15 年に行革推進委員会設置条例を定め、平成 22 年に行政評価実施規定を制定して行政評価に取り組んでいる。具体的には、国分寺市総合ビジョンで掲げる 36 施策を毎年度ごとに施策評価を行うとともに、施策評価に際しては市民アンケートを毎年度実施し、施策評価に反映している。また行政評価実施規程に基づき、効率的かつ効果的な市政運営を行うことを目的に、事務事業評価を行っている。令和 2 年度からは、前年度終了後に評価を行うとともに、当該年度上半期の実施状況・下半期の見通しを踏まえ事務事業を見直し、次年度予算編成に反映している。施策評価における市民アンケートは、施策評価を通じ市政運営・行政運営に市民の声を反映するとともに、行政運営に対する説明責任をより明確に果たしている。また、当該年度における半期ごとの評価は、自己評価を半期に毎に行うことにより正確な予算編成に繋がると推察する。